

連載「プロマネの現場から」

第 200 回 視野・視座・視点

蒼海憲治（大手 SI 企業・グループ会社・事業部長）

最近目にした X（旧・ツイッター）の投稿記事に、ほったけんたさんの「視野は広く、視座は高く、視点は鋭く。先入観と盲点の存在を認める。目線は合わせ、視線は熱く。そんな人に私はなりたい。」（※1）という言葉がありました。非常に良い言葉であり、かくありたいと大いに共感しました。

若い頃、提案書の確認や報告書のレビューを受けた際、上司や先輩、お客さんからさまざまな指摘を受けましたが、いま振り返ると、「視野が狭い。視座が低い。視点が違う・平凡だ」ということを異口同音に言われていたように思います。

若手だけではなく、中堅・ベテランにおいても、視野を広く、視座を高く・視点を多角的に鋭く持つことは大切だと考えています。そこで、今回は、この視点・視座・視野について、考えたいと思います。

まず、各々の意味を、新明解国語辞典でみてみます。

視野とは、「一定の位置から（目を動かさないで）見える範囲」。

視座とは、「見方の基礎になる立場」。

視点とは、「物事を描いたり、論じたりする時の作者や論者の立場」。

つまり、

視野は「どこまで見ているか」・「どの範囲で物事を見ているか」

視座は「どこから（どの高さから）見ているか」・「どの立場で見ているか」

視点は「どこを見ているか」・「どの観点で見ているか」

を指しています。

そのため、

「視野が広い」と、狭い範囲にとらわれず、多様な情報や意見を受け入れることができるようになります。物事を多面的・多角的にみることができ、新しいアイデアや視点を取り入れることができ、柔軟性や創造性を発揮することができます。

「視座が高い」と、より上の立場で、物事を広い視野や大局的な視点から捉えることができるようになります。高い視座を持つことで、個々の細かな部分だけでなく、全体の構造や関連性を理解し、より包括的な視点から物事を考えることができます。

また、現状だけを見た場当たりの判断ではなく、過去の経緯を踏まえて仮説を立てながら行動したり、未来の視点を持ちながら状況を把握したりすることができるようになります。

「視点が多角的」と、物事に対して複数の異なる視点や角度から物事を捉えることができるようになります。異なる視点を持つことで、より広い視野を持ち、より深い理解や洞察を得ることができます。

一方、逆になるとこうなります。

「視野が狭い」と、既存の考え方や経験にとらわれ新しいアプローチを受け入れられず、また、問題を一面的に捉えてしまい、全体像や関連性、他者の視点を見落とすおそれがあります。そのため、新しいアイデアや視点に対する柔軟性が低下し、効果的な解決策を見つけることが難しくなり、問題解決能力やコミュニケーション能力が低下します。

「視座が低い」と、個別の部分や細かな詳細に焦点を当てる傾向があり、全体像や大局的な視点を見失いやすくなります。また、限られた情報や視点に基づいて判断を下すことになり、全体の構造や関連性を見逃し、偏った判断や行動を取るおそれがあります。低く視座だと、他者の視点や意見を理解しにくくなり、対立や誤解が生じやすくなるため、コミュニケーションや協力関係が損なわれるおそれがあります。

「視点が固定されている」と、自分の視点からしか物事を考えられないため、他者の考えを受け入れることが難しくなります。

つまり、視野が狭く、視座が低く、視点が固定されている人は、物事の見方が固定的・限定的があるため、自分の考えに固執してしまいがちになります。そうすると、物事を上手く進めることができず、問題や課題が生じた際も、コミュニケーションにより上手く解決することができなくなります。

次に、視野が広がること、視座が高くなることによるメリットになります。

視野が広がることで、次のようなメリットがあります。

1.問題解決能力が高まる・想像力が豊かになる

たくさんのアイデアが浮かぶことで、失敗を乗り越える方法を見つけやすくなります。一つの考えに固執しないため、常に新たな方法や情報を取り入れることができるようになります。

2.周囲の意見を受け入れられる

偏見がなく、他人の考えや意見を受け入れられるため、自分とは異なる立場の考え方を重視できるようになります。

3.新たな価値観をインプットできる・物事をポジティブに捉えられる

周囲から何かアドバイスを受けたときも、既存の自分の考えを否定されるとネガティブな感情になることなく、「そのような考え方もあるのか」と受け入れられるようになります。

4.信頼ができて人間関係が良くなる

視野が広い人は、自分の意見を押しつけることなく、他人とスムーズに意見のやりとりができます。コミュニケーション能力が高くなるため、上司や同僚、部下、取引先とも良好な関係を築くことができます。

5.行動力を高められる

何事も「まずやってみる」という気持ちを持つことで、多くのきっかけや出会いを得ることができます。そのため、仕事だけでなく、プライベートも充実する傾向があります。

視座が高くなることで、次のようなメリットがあります。

1.個別最適ではなく、全体最適を考えられるようになる

物事を考える際、視座が低いと「自分中心」になってしまい、相手のことや周囲のことを考えられません。しかし、視座を高めることで、「今の自分」だけでなく、周囲の人や上位の役職者（直属上司、部門長、経営陣など）の立場からも物事を捉えることができ、「組織全体」にとって最適であるためにはどうすればいいのか、を考えることができるようになります。

また、この際、「組織全体」の範囲をどう捉えるか、も重要になります。全体を、「自部門」と捉えるか、「自社」と捉えるか、はたまた「自国」「世界」と捉えるのか。それによって、最適となる答えも変わってきます。

2.アイデアが出やすくなる

視座が高くなると、複数の視座で物事を捉えることができるので、それぞれの視座で思考をすることができます。

たとえば、自分が若手であり、プロジェクトの一メンバーにすぎない場合であっても、課題・問題が生じ、自分の視野では解決が困難な時、「チームリーダーだったらどう考えるだろうか」「プロジェクトリーダーだったらどう行動するだろうか」と考えることで、異なる立場からの別のアイデアが浮かぶ可能性が高まります。そうでない場合であっても、誰に相談すべきかを思いつき、解決に近づくことができます。

3.適切な行動が取れるようになる

視座を高め、物事を全体の構造を押さえ、多角的に把握できるようになることで、目の前の作業をひたすらこなすことから、仕事の目的や全体像を把握した上で仕事に取り組むことができるようになります。いま何を優先して、何を後回しにすべきかという仕事における優先順位が判断がしやすくなったり、目的に不要な無駄な作業や余計なことをする必要がなくなり、業務を効率的に進めることができるようになります。

4.モチベーションが向上する

視座が高くなり、物事を俯瞰的に捉えることができるようになると、「何のためにやるのか」という取り組む意義や意味を理解できるようになります。取り組む仕事や業務への目的意識を向上することで、モチベーションを向上することができるようになる。

5.目標達成意欲が高まる

視座を高め、モチベーションが高まることで、目標達成に対する意欲も向上できます。目的が意識できるようになることで、目標達成のためのこだわりがより強まり、目標達成に向けた行動を意欲的に取り組むことができるようになります。

6.リスク管理能力が高まる

プロジェクトや組織運営においては、視座を高め、管理職や経営陣の立場で物事を考える意識づけをすることにより、リスクヘッジの能力や、トラブルが発生した時の対応能力を向上させることができます。

7.周囲からの信頼・協力を獲得しやすくなる

「視野を広げる」ことのメリットと同様、「視座を高める」ことにより、囲からの共感や協力を得やすくなります。

周囲に働きかける際、自分本位の立場だけでなく、相手や周囲の立場にたった行動やメリットを示すことで、相手の信頼や協力を得ることができるようになります。

次に、視野・視座・視点を向上させる方法になりますが、ChatGPT に何度か聞いたものをまとめるとこうなります。

I. 視野を広げる方法

1. 多様な情報を収集する

- ・フィクション、ノンフィクション、専門書、歴史書、哲学書など、さまざまな分野の書籍や記事を読むことを通して、異なる視点や考え方を吸収する。
- ・定期的に異なるテーマのセミナーやワークショップに参加する。

2. 異文化交流を行う

- ・海外旅行や外国人との交流を通して、異なる価値観を理解する。
- ・国際的なプロジェクトやボランティア活動に参加することで、さまざまな背景を持つ人々と出会い、視野を広げる。

3. 異なる視点を持つ人と交流する

- ・自分と違う背景や考え方を持つ人と会話する機会を作る。
- ・ディスカッションやディベートを通じて違う意見に触れ、多様な視点を取り入れる。

II. 視座を高める方法

1. 長期的な積点を持つ

- ・短期的な利益よりも長期的な成果や影響を考える習慣をつける。
- ・自分の業界や分野が今後どのように変化するかを予測し、その変化に対応するための準備をする。
- ・人生のキャリアの長期的な目標を設定し、それに向けた計画を立てる。

2. 他者の立場に立つ

- ・他人の感情や状況を理解しようとするエンパシー（共感）のスキルを磨く。これにより、他人の立場や視点を深く理解できるようになる。
- ・意識的に、顧客・上長・チームメンバー等、他者の視点から物事を考える練習をする。

3. 俯瞰的な視点を持つ

- ・問題や状況を全体的に捉えるために、細部にこだわらず全体像を意識する。
- ・問題や状況をシステム全体の一部として捉えることで、問題の根本原因を理解できるようになる。

III. 視点を変える方法

1. クリティカルシンキングを養う

- ・物事を批判的に分析し、自分の考えや他者の意見を客観的に評価する。
- ・論理的な思考を促進するために、問題解決のプロセスを明確にする。

2.メンタルモデルを多様化する

・一つの問題に対して複数の視点（技術的な視点、経済的な視点、社会的な視点等）からのアプローチをする。

・異なる業界や分野の成功事例を学び、それを自分の状況に応用する。

3.フィードバックを活用する

・他人からの意見や批判を積極的に受け入れ、自分の視点や考え方を見直す。

・反省と改善を繰り返し、柔軟な思考を持つようにする。

3.問題解決のフレームワークを活用する

・ユーザー中心のアプローチで問題を解決するため、「デザインシンキング」のフレームワークを活用する。

・「システム思考」により、問題や状況をシステム全体の一部と捉え、全体のバランスを捉える。

視野・視座・視点の向上に共通することとして、以下の二つがあります。

1.自己反省とフィードバック

・定期的に自分自身を振り返り、どのように成長しているかを確認する。

・他者からのフィードバックを積極的に受け入れ、自分の視点を見直す。

2.継続的な学び

・新しい情報や技術を常に学ぶ習慣を持ち続ける。

・自分の専門分野以外にも興味を持ち、新しい知識を積極的に取り入れる。

これらの方法を実践することで、視野・視座・視点を向上させることができます。

最後に、冒頭に紹介した、ほったけんたさんの言葉に少し追加してみます。

「視野は広く、視座は高低自在に、視点は多角的に鋭く。先入観と盲点の存在を認める。

目線は合わせ、視線は熱く。」ありたいと思います。

(※1) ほったけんた@mottajapan

2:40 PM · Dec 31, 2022

<https://x.com/mottajapan/status/1609061873537921024>